

第2章 本市の概要

第1節 本市の概要

1 沿革

本市は、豊かな水と自然の中に早くから文化がひらけ、縄文時代から古墳時代の考古学研究史に残る遺跡が多く発掘されています。

武蔵国は代表的な馬の産地で、四つの勅使牧の一つ小川牧は、小川郷（秋川・平井川流域）を中心にした牧でした。

鎌倉時代、この地域は秋留郷と呼ばれ、武蔵七党のうち西党に属する小川氏、二宮氏、小宮氏、平山氏などが鎌倉幕府の御家人として活躍していました。室町時代になると、武蔵総社六所宮随一の大社である二宮神社は、小川大明神と呼ばれていました。

戦国時代の終わりごろからは、伊奈と五日市に「市」が開かれ、江戸時代になると木材は、秋川・多摩川を筏で流し江戸に送っていました。このほか、絹糸を泥染めした黒八丈は、柔らかく深い艶のあることから帯や羽織の衿などに珍重され、別名「五日市」と呼ばれました。

江戸時代の集落は、秋川・平井川の段丘面や草花丘陵縁辺などに点在し、現在の市域の字として残る32か村となって明治時代に至っています。

明治12年、五日市村が五日市町となり、同22年に市制町村制が施行され、東秋留村・西秋留村・増戸村・明治村・三ツ里村・小宮村が誕生、小中野村が五日市町と合併しました。同26年に多摩地域が神奈川県から東京府に移管され、大正7年には三ツ里村・明治村が五日市町と合併しました。

昭和30年に町村合併促進法により、東秋留村・西秋留村・多西村が合併し、秋多町が誕生するとともに、増戸村・戸倉村・小宮村が五日市町と合併し、新しい五日市町となりました。

同47年には秋多町が市制施行し秋川市が誕生、平成7年9月に平成大合併の先駆けとして秋川市と五日市町が合併し、本市が誕生しました。

2 自然環境

(1) 位置及び地勢

本市は、東京都の西端、都心から40～50km圏に位置し、行政区域は東西に18.0km、南北に12.7kmで、面積は73.34km²、都内26市の中で3番目の広さを有しています。

東は多摩川を隔て福生市及び羽村市、西は檜原村、南は八王子市、北は日の出町、青梅市及び奥多摩町に接しています。

また、市域は山地、丘陵地、台地及び低地により構成されており、標高は西から東に向かって低くなっています。山地は市域の西部に大きく広がり、秋川、養沢川、盆堀川等が流れ溪谷を形成しています。丘陵地は市域の南に秋川丘陵、北に草花丘陵等が広がっています。台地は古くから秋留台地と呼ばれ、主にこの地域に市街地が形成されています。低地は秋川及び平井川沿いに広がり、水田地帯となっています。

本市の位置を図2-1-1に示します。

第2章 本市の概要



図 2-1-1 本市の位置

(2) 気候特性

青梅観測所における観測データを次に示します。

ア 気温

平成 13 年から平成 22 年における過去 10 年間の月別平均気温を図 2-1-2 に示します。

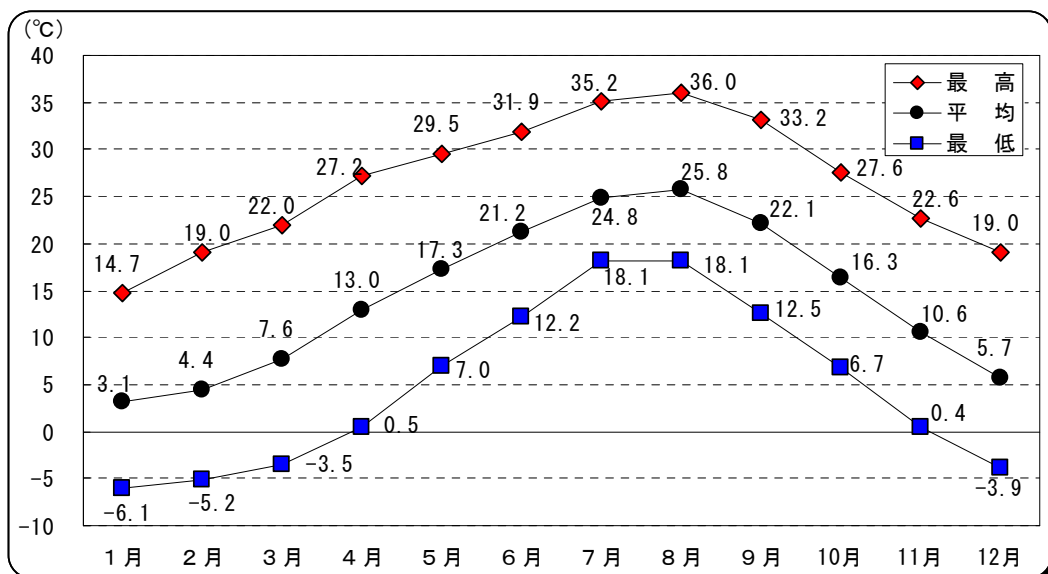


図 2-1-2 月別平均気温（過去 10 年間） 出典）青梅観測所 観測データ

イ 降水量

過去10年間の月別平均降水量を図2-1-3に示します。

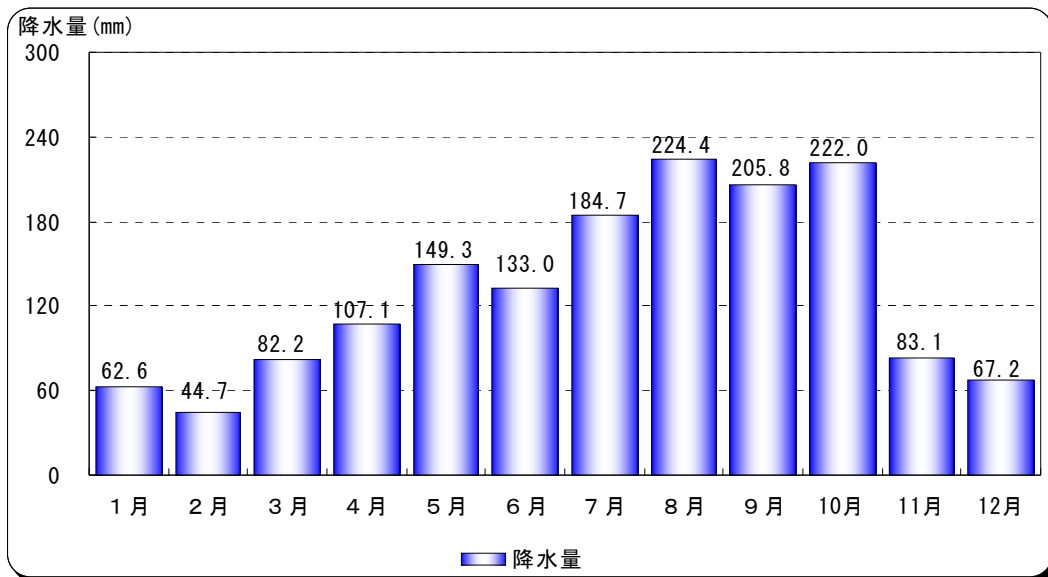


図2-1-3 月別平均降水量（過去10年間） 出典）青梅観測所 観測データ

ウ 風速

過去10年間の月別平均風速を図2-1-4に示します。

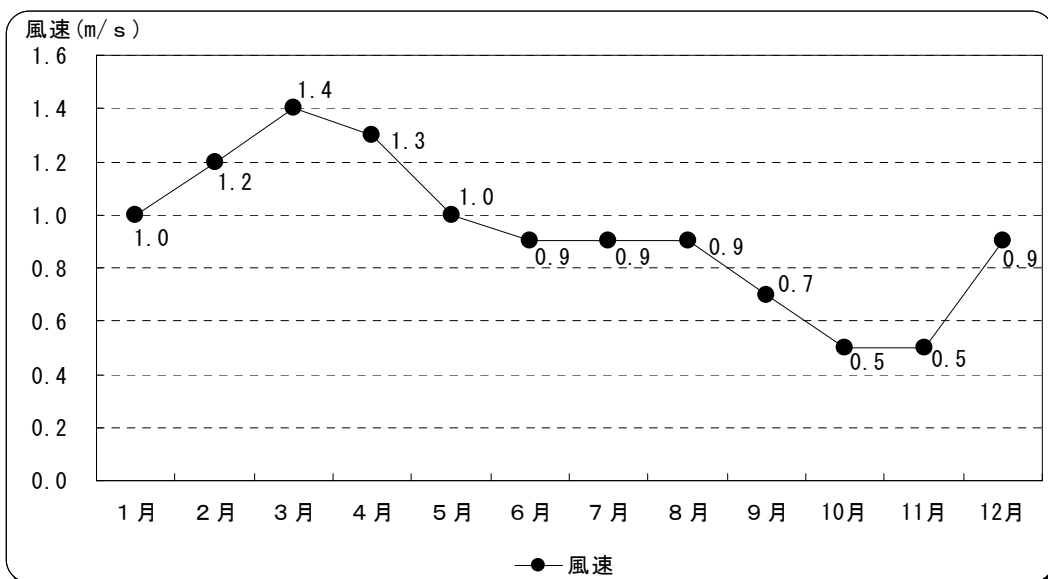


図2-1-4 月別平均風速（過去10年間） 出典）青梅観測所 観測データ

3 人口及び世帯数の推移

本市における平成13年度から平成22年度までの人口及び世帯数の推移を表2-1-1及び図2-1-5に示します。

人口は増加傾向となっており、この10年間に約3%（2,686人）の人口増となっています。

また、世帯数も増加傾向で約14%（4,114世帯）の増となっていますが、その間の世帯人員は2.8人/世帯から2.5人/世帯に減少していることから、核家族化が進んでいることが伺えます。



表 2-1-1 人口及び世帯数の推移

年度	総人口	人口増加率	世帯数	世帯人員
	(人)	(%)	(世帯)	(人/世帯)
H13	79,166	—	28,487	2.8
H14	79,771	0.8	29,084	2.7
H15	80,263	0.6	29,678	2.7
H16	80,423	0.2	30,089	2.7
H17	80,725	0.4	30,524	2.6
H18	80,841	0.1	30,985	2.6
H19	81,200	0.4	31,421	2.6
H20	81,448	0.3	31,748	2.6
H21	81,865	0.5	32,273	2.5
H22	81,852	0.0	32,601	2.5
10年間	2,686	—	4,114	▲0.3

出典) 住民基本台帳月報【10月1日人口】

凡例) ▲: 減少

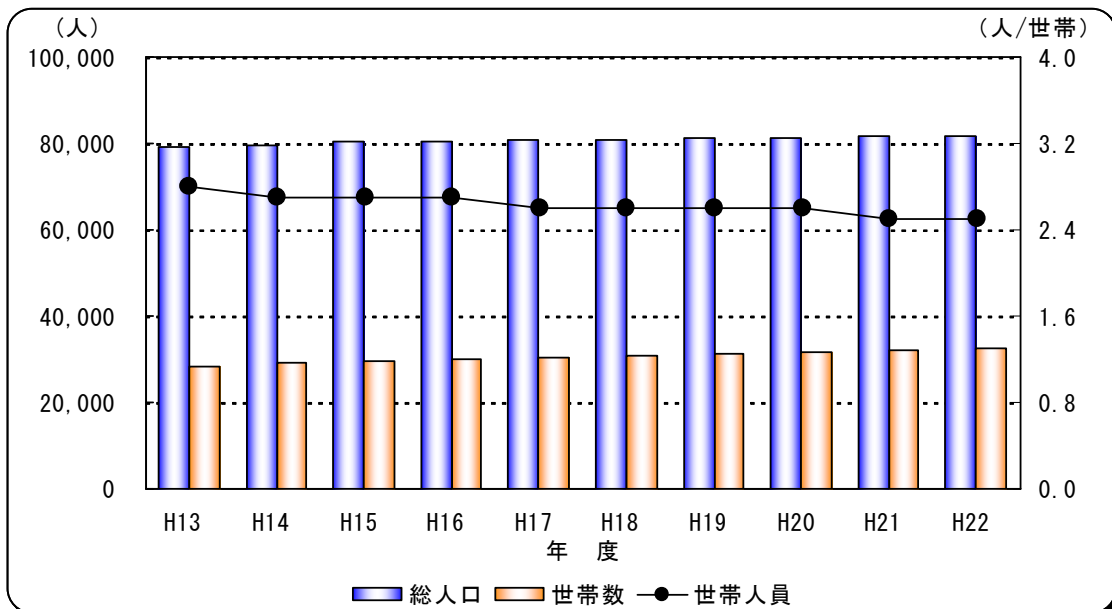


図 2-1-5 人口及び世帯数の推移

4 5歳階級別人口

本市における5歳階級別人口を表2-1-2及び図2-1-6に示します。

階級構成をみると、男性は30～34歳階級、女性は55～59歳階級が最も多くなっています。また、出生者の減少による、少子高齢化が進んでいることが伺えます。

表 2-1-2 5歳階級別人口

区分	年 齢 (歳)	男 (人)		女 (人)	
		年少人口	0～4	1,952	6,019
	5～9	2,045	1,932		
	10～14	2,022	1,942		
生産年齢人口	15～19	2,181	26,962	2,043	25,665
	20～24	2,249		2,050	
	25～29	2,430		2,340	
	30～34	3,281		2,986	
	35～39	2,994		2,704	
	40～44	2,549		2,320	
	45～49	2,280		2,209	
	50～54	2,632		2,630	
	55～59	3,227		3,291	
	60～64	3,139		3,092	
老年人口	65～69	2,520	6,898	2,348	8,410
	70～74	1,855		1,902	
	75～79	1,338		1,482	
	80～84	670		1,177	
	85～89	339		872	
	90～94	136		454	
	95～99	38		149	
100～	2	26			
総数		39,879		39,702	

出典) 国勢調査【2005年】

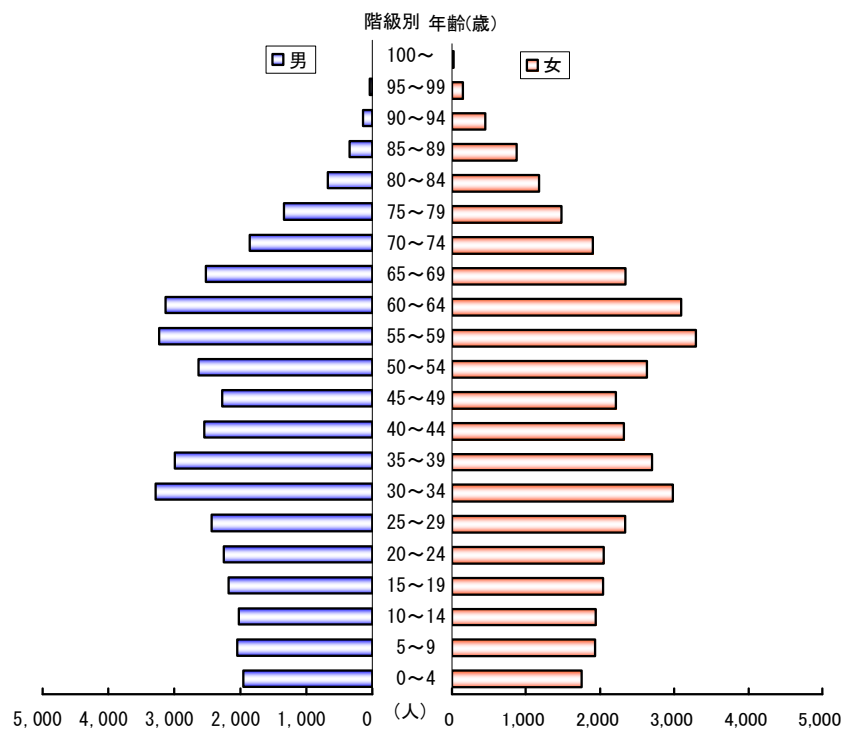


図 2-1-6 5歳階級別人口

5 産業別就業者数

本市における産業別人口の推移を表 2-1-3、表 2-1-4 及び図 2-1-7 に示します。

全産業に占める第三次産業の割合は年々増加しており、平成 17 年においては 69.2% となっています。

一方、全産業に占める第一次産業及び第二次産業の割合は年々減少しています。

産業別人口は、一部の産業において増加が見られますが、全体として減少しています。

表 2-1-3 産業別人口の推移 (単位：人)

	S60	H2	H7	H12	H17
第一次産業	823	832	908	751	773
第二次産業	6,912	8,188	8,490	12,223	10,706
第三次産業	10,244	11,802	14,610	24,843	25,748
総 数	17,979	20,822	24,008	37,817	37,227

備考) 分類不能の職業を除く。

出典) 国勢調査【2005 年】

表 2-1-4 平成 17 年における産業別人口の推移

産業分類	H17	
	従業者数	比率 (%)
第 一 次 産 業	773	2.08
農 業	755	2.03
林 業	15	0.04
漁 業	3	0.01
第 二 次 産 業	10,706	28.76
鉱 業	7	0.02
建 設 業	3,554	9.55
製 造 業	7,145	19.19
第 三 次 産 業	25,748	69.16
電気・ガス・熱供給・水道業	176	0.47
運 輸 ・ 通 信 業	2,557	6.87
卸 売 ・ 小 売 業 ・ 飲 食 店	6,112	16.42
金 融 ・ 保 険 業	700	1.88
不 動 産 業	504	1.35
サ ー ビ ス 業	14,004	37.62
公 務	1,695	4.55
総 数	37,227	100.00

出典) 国勢調査【2005 年】

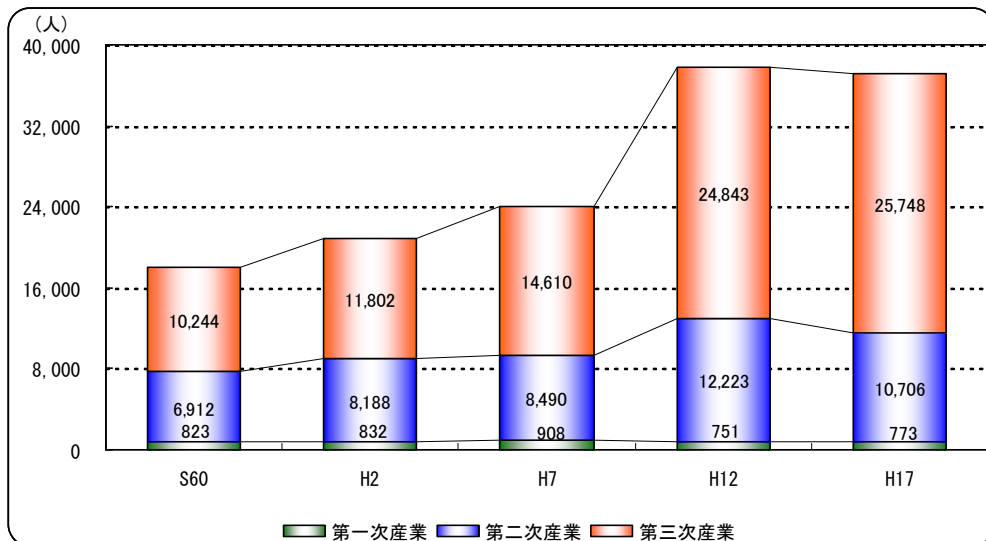


図 2-1-7 産業別人口の推移

6 土地利用状況

本市における土地利用状況を表 2-1-5 及び図 2-1-8 に示します。

本市の行政区域 7,334ha のうち、森林が約 4,558ha、62.1%と市域の6割を占め、続いて、宅地が約 947ha、12.9%、農用地が約 508ha、6.9%となっています。

表 2-1-5 土地利用状況

区 分	面積 (ha)	割合 (%)
公共用地	131.6	1.8
商業用地	102.8	1.4
住宅用地	620.5	8.5
工業用地	72.2	1.0
農業用地	20.4	0.3
空地	504.6	6.9
道路	349.8	4.8
農用地	508.4	6.9
河川・水路等	141.9	1.9
原野・その他	323.8	4.4
森 林	4,558.0	62.1
総面積	7,334.0	100.0

出典) あきる野市都市計画マスタープラン
(2011年3月策定)

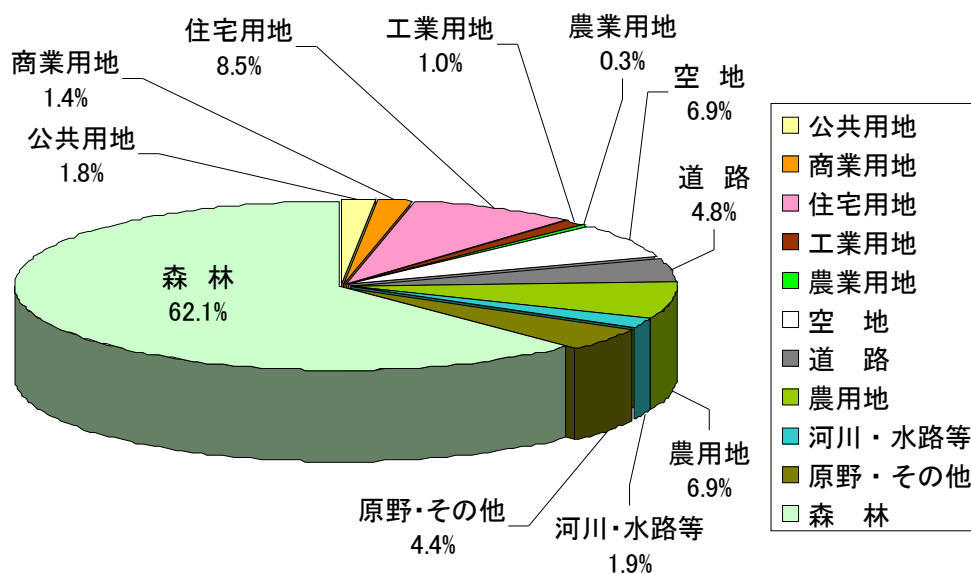


図 2-1-8 土地利用状況